

会津地方への避難の状況

福島第一原発事故による放射線の影響で、多くの浜通りの住民の皆さんが会津若松市を中心とした会津地方の仮設住宅などに避難しています。自宅のある地域から100Km以上も離れ、気候も浜通りとは異なる地で、今も避難生活を続けている方が多くおられます。そのような中で、会津地区の赤十字奉仕団の皆さんは、被災者に対する支援を続けてきました。

喜多方市赤十字奉仕団の活動

喜多方市には仮設住宅はありませんが、喜多方市赤十字奉仕団は、会津若松市内の仮設住宅を訪れたり、喜多方市内の借上げ住宅に住む避難者を集めた交流会を開催したりして、大熊町からの避難者に対する支援を行っています。



【炊き出し訓練と芋煮会】(活動報告からの抜粋)

2013年10月と、2014年の10月に、喜多方市内の河川敷に、喜多方の借上げ住宅と、会津若松市内の仮設住宅の入居者を集めて、炊き出し訓練と交流を兼ねた芋煮会を開催しました。引きこもり予防にもなり、音楽に合わせて歌ったり遊ぶことによってリラックスもでき、秋晴れの空の下でストレス発散することができました。



2013年10月開催の炊き出し訓練と芋煮会



2014年10月開催の炊き出し訓練と芋煮会